

方剂名		効能	生薬組成
書籍		主治および証	病機 方意
<b>固澁剂 固崩止帯剂 1</b>			
かんたいとう 完帯湯	補中健脾・化湿止帯		白朮・山薬各 30g・人参 6g・白芍 15g・車前子・蒼朮各 9g・炙甘草 3g・ 陳皮・荊芥炭各 4.5g・柴胡 1.8g 水煎し、服用する。
傳青主女科	<主治> 補中健脾・化湿止帯 無臭で稀薄な白～淡黄色の帯下が長期間続く、顔色が白い、倦怠無力感、泥状便、舌質が淡、舌苔が白、脈が緩あるいは濡など。 <病機> 脾虚肝鬱による湿濁下注の白色帯下である。 脾虚で運化が低下して湿濁が内生し、更に肝鬱乘脾のために運化がより障害され、湿濁が盛んになり下注して帯下となったもので、化熱がないために無臭、稀薄、白～淡黄色を呈し、脾運が回復しないので長期間にわたり持続する。顔色が白い、倦怠無力感、泥状便、舌質が淡、舌苔が白、脈が緩あるいは濡などは、脾虚湿盛を表わす。 <方意> 補中健脾、柔肝疏肝によって本治すると共に化湿止帯する。 補気健脾の人参・白朮・山薬が主薬で、白朮は燥湿に、山薬は渋精にも働き、燥湿運脾の蒼朮・陳皮と、利水祛湿の車前子を配合することにより、補中健脾、化湿止帯の効能が得られる。また、柔肝の白芍と、少量の疏肝の柴胡を加え、肝気を調整して脾運を強め、更に血分に入り祛風勝湿する荊芥炭で止帯を補助する。炙甘草は諸薬を調和し和中する。なお、柴胡・荊芥炭は、昇陽により湿濁下流を防止する意味も持っている。全体で脾運を健旺にして昇陽化湿することにより白帯を止める。 <参考> 加減法 腎虚で腰のだるさが甚だしければ、菟絲子・杜仲などを加えて補腎強腰する。 虚寒の下腹部痛を伴うときは、温経散寒止痛の烏薬・小茴香を加える。 遷延するときは、温腎澁帯の鹿角霜を加える。		
せいたいとう 清帯湯	健脾止帯・凉血		山薬 30g・生竜骨 18g・生牡蠣 18g・烏賊骨 12g・茜草 9g 水煎し、服用する。
医学衷中参西録		主治は、脾虚湿盛による白帯に軽度の出血を混じえて赤白帯を呈しており、健脾の山薬を主に、収澁止帯の竜骨・牡蠣と止帯止血の烏賊骨および凉血の茜草を加えている。	
ちよじゅこんがん 樗樹根丸	清熱燥湿・固経止帯		樗樹根皮 45g・白芍 6g・黄柏 6g・高良姜 9g 粉末を丸にし 1日 3回 6g ずつ服用する。 水煎し、服用してもよい。
撰生衆妙方		主治は、湿熱下注による腥臭のある赤白帯下。 清熱固経の樗樹根皮を清熱化湿の黄柏と苦泄和宮の白芍で補助し清熱燥湿、固経止帯する。苦寒薬に辛温の高良姜を配合するのは寒凝、傷脾を防止する目的である。	
いおうとう 易黄湯	健脾燥湿・清熱止帯		山薬 30g・芡実 30g・黄柏 6g・車前子 3g・銀杏 9g 水煎して服用する。
傳青主女科		主治は、脾虚湿熱の黄色帯下で、粘稠かつ腥臭を伴う。 脾虚湿盛で化熱し、湿熱下注によって黄帯が生じている。 健脾収澁の山薬・芡実と収澁止帯の銀杏、更に清熱燥湿の黄柏・車前子を配合し、健脾によって生湿を防止すると共に清熱燥湿、止帯する。	